

府中市自然環境調査（平成25年度）報告書

平成26年9月

府中市自然環境調査員会議

目次

1. 調査の概要
2. 調査方法
3. 調査結果
4. 自然環境学習会
5. 課題
6. 考察

資料

- (1) 府中市自然環境調査員会議委員名簿
- (2) 自然環境調査実施記録
- (3) 自然環境調査結果
- (4) 府中市自然環境調査員会議委員の感想

1. 調査の概要

今回の調査は、本市の自然環境の現状を把握するため、かつて府中市自然調査団が行った『府中市自然調査報告（東京都府中市教育委員会発行）（昭和45年（1970年））』を参考に、平成24年12月に発足した府中市自然環境調査員会議において調査方法を検討した結果、調査地点を「武蔵台公園」と定め、毎月1回の定期的な「自然環境調査」を実施しました。



2. 調査方法

調査方法について、自然環境調査員が武蔵台公園を試行的に調査した結果、次のように調査方法を定め、調査を行いました。

- (1) 調査日を月に1回とした（調査日は基本的には第2週水曜日とした。）。
- (2) 調査時間は午前9時半から11時の約1時間30分とした。
- (3) 調査地域を武蔵台公園とした。

武蔵台公園 住所：府中市武蔵台2丁目2番地

面積：46,835.08㎡

- (4) 調査の対象を草本類、木本類、昆虫類、鳥類とした。
- (5) 調査班を植物班、昆虫班、野鳥班の3班に分け、各グループが公園内を毎回同じコースを歩き、生きものを確認し記録した。

- (6) 記録した種は、次のとおりである。

草本類：蕾（つぼみ）、花、実について記録した。

木本類：蕾（つぼみ）、花、実について記録した。

昆虫類：卵囊（らんのお）、幼態、成虫について記録した。また、種名の判別がつかないものについては掲載しなかった。

鳥類：目視および鳴き声により確認したものについて記録した。

- (7) 現地調査後、自然環境調査員が集まり、調査した内容を確認した。
- (8) 各グループのリーダーが調査結果を取りまとめ、市へ報告した。
- (9) 外来生物、植栽されたと思われるものについては注釈をつけた。



調査区域（武蔵台公園）

3. 調査結果

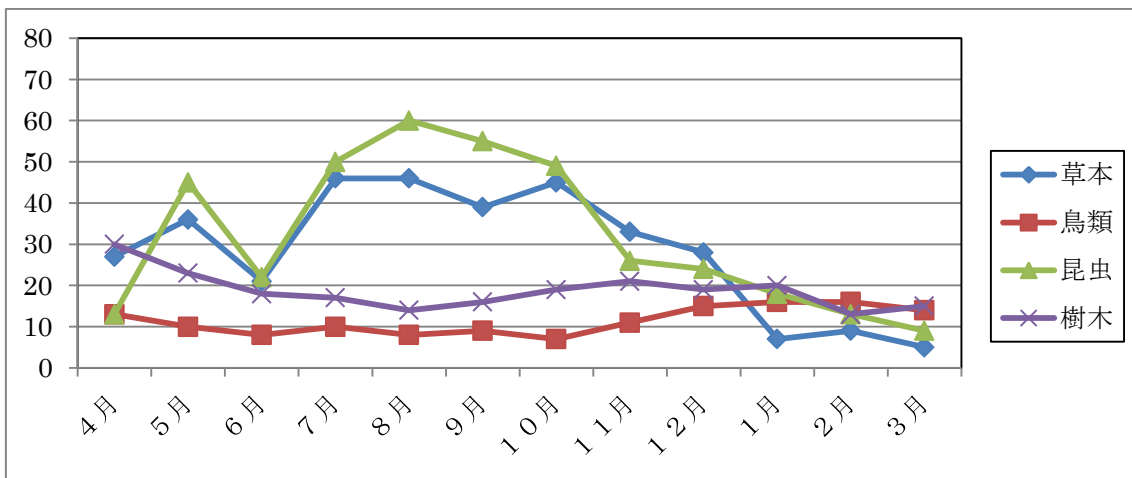
現地調査の結果、395種類の生物を確認しました。

分類	種数	外来種	植栽と思われるもの	合計
草本類	132		7	139
木本類	65		7	72
昆虫類	159	3	—	159
鳥類	22	3	—	25
合計	378	3	14	395

平成25年度に確認した種のうち、「府中市自然調査報告（1970年）」にも確認がされている種数

ただし、草本類、木本類、鳥類は、府中市内全域で確認された種数、昆虫類は、武蔵台地域で確認された種数を掲載。

分類	種数	府中市自然調査報告に収録された種数
草本類	132	87
木本類	65	44
昆虫類	159	54
鳥類	22	18
合計	378	203



(1) 草本類

草本類は、132種を確認した。

春にはキク科、夏から秋にはイネ科のものがよく確認できた。特に笹刈りをしたあたりは、春先にキンランやササバギンランがよく見られた。

夏には、キツネノカミソリ、オオバノトンボソウやマヤランが見られた。

(2) 木本類

木本類は、72種を確認した。

雑木林の特徴であるコナラやクヌギ、崖線に植生するケヤキ、シラカシ、フタリスズカ、クマノミズキなどを確認し、雑木林と崖線林の双方の特徴を見ることができた。

アセビやオオムラサキツツジなど植栽と思われるものも所々で見られた。

アズマネザサ、シュロやヤツデなど常緑林に多く見られるものは除去していく必要がある。

(3) 昆虫類

昆虫類は、11目・68科・159種を確認した。

特にカメムシ類やシャクガ類を多く確認した。以前より府中市内で見られなかったいくつかの蝶類の北上化傾向が認められた。

外来種・蝶＝アカボシゴマダラも確認された。

(4) 鳥類

鳥類は、22種、外来種3種を確認した。

キジバト、ハシブトガラス、シジュウカラ、ヒヨドリ、メジロ、コゲラは一年を通してよく見ることができた。

12月から2月の調査では、エナガ、シロハラ、ツグミ、シメといった冬鳥を見ることができた。笹藪ではアオジの地面を歩き回る様子やウグイスのチッチッという鳴き声を聞いた。

2月の調査で、ジョウビタキ(み)が胸の茶色が何とも言えない輝きを見せ、調査員の近くを飛び回る場面もあった。

3月の大雪の影響からか低温が続き、ツグミなどの冬鳥が渡ってくる時期が遅いような感があった。

4. 自然環境学習会

調査員の知識を深めるとともに、東京農工大学と協力・連携するため、自然環境学習会を行った。

特に、東京農工大学 助教 吉川正人氏（のちに准教授）に講師を依頼するだけでなく、本調査の技術的な助言をいただき、調査の参考にしている。

■府中市自然環境調査員学習会

- (1) 日 時 平成25年5月18日（土）午前10時～正午
- (2) 場 所 東京農工大学農学部5号館11教室及び同大学キャンパス
- (3) 講 師 東京農工大学農学部 助教 吉川正人氏
- (4) 参加者 府中市自然環境調査員 10名

■自然環境学習会（武蔵台公園の自然環境調査）

- (1) 日 時 平成25年12月4日（水）午前9時～午前11時
- (2) 場 所 武蔵台公園
- (3) 講 師 東京農工大学農学部 助教 吉川正人氏
- (4) 参加者 府中市自然環境調査員 10名 ほか9名

■自然環境学習会（動物の視点から見た府中の自然）

- (1) 日 時 平成26年3月25日（火）午後5時30分～午後7時
- (2) 場 所 府中駅北第2庁舎3階第2会議室
- (3) 講 師 東京農工大学大学院 講師 小池伸介氏
- (4) 参加者 府中市自然環境調査員 12名 ほか17名



5. 課題

1年間の調査を振り返ると、「調査する時間が短い」「午前中の調査だと活動していない昆虫もいる」「1か月に1回の調査だと開花期を逃してしまう」「雨や雪などの天候では確認する種数に変化がある」といった様々な意見があった。

調査する日の気象条件などによって、確認できる生きものの種数も大きく変動する可能性もある。しかしながら、植物、昆虫、野鳥に詳しい調査員が一堂に会する日を設定するのはなかなか難しく、これ以上に念を入れた調査をすることは難しい。

調査を継続する中で、主力となる調査員が諸事情により調査に出席できない場合に調査の実施が困難となってしまう可能性があることから、調査員の知識や経験をより多くする機会を創り、調査員の層を厚くする必要がある。

調査を実施する中で、「たくさんの生きものを知ることができ、とても勉強になった」「もっと調査に参加して勉強していきたい」「参加して楽しかった」といった前向きな意見もあり、今後も楽しみながら調査を継続していくようにしたい。



6. 考察

限られた時間の中で実施した調査ではあるものの、毎月1回の調査を継続して行い、記録していくことは大変意味のあることであると考えます。調査結果を積み重ねる中で、自然環境の現状と変化が次第に見えてくると考えています。このため、今後も平成25年度と同じ方法で調査を継続していくこととします。

また、「水と緑のネットワークウォーキングマップ（第4版）（平成26年4月発行）」を活用しながら、市民を対象とした「自然観察ツアー」の実施にあたっては、本調査の経験を活かしていきたい。

その一方で、自然環境調査員が調査した結果と、他地域との比較をしていく必要性を感じる委員も増えてきました。身近に残る自然は武蔵台地域だけでなく、四谷や多摩川など他地域においても状況を把握する必要があると感じたからである。しかしながら、調査員の労力にも限界があることから、一般市民にも参加してもらう仕組みや関係機関と連携・協力する仕組みを考える必要もある。どのようにして本市の自然環境を把握していくのか今後の課題としたい。

東京農工大学農学部地域生態システム学科准教授吉川正人氏からは、自然環境学習会で、普段の活動による知識や経験に基づいて、積極的な意見交換をする場面も数多くあったことから、この調査員会議を知識レベルの高い市民団体として高い評価をいただいている。

府中野鳥クラブや浅間山自然保護会、府中かんきょう市民の会、東京農工大学、西武・武蔵野パートナーズ（市内の都立公園における指定管理者）などでも、自然観察や自然調査を継続的に行っており、これらの関係機関と情報交換することで情報を共有し、本市の自然環境を把握することが可能となってくるかもしれません。こうした自然環境調査は、地域の生物多様性保全への取り組みにつながっていくことと思う。

地道な調査ではあるものの、調査結果を積み重ねていくことで、自然の移り変わりを知り、今後における本市の自然環境のあり方を考えるうえで、貴重な調査資料となると思っています。

資料

(1) 府中市自然環境調査員会議委員名簿

	役職	名前	担当
1	副会長	新井 孝次朗	植物班
2		石川 助成	植物班
3		糸井 勝子	植物班
4	会長	大澤 邦男	野鳥班 (リーダー)
5		柁島 弘通	昆虫班
6		清田 一則 (H25.10.16付退任)	植物班
7		小泉 共司	昆虫班 (リーダー)
8		後藤 晶江	植物班
9		佐川 タマ江	植物班
10		内藤 林三	植物班
11		野口 道夫	植物班 (リーダー)
12		野口 佑子	野鳥班
13		橋本 和司	野鳥班
14		森田 敏雄	昆虫班
15		山田 義夫	植物班

(2) 自然環境調査実施記録

調査日	天候	調査員数
平成25年 4月11日(木)	晴	14名
5月 8日(水)	晴	12名
6月12日(水)	雨	9名
7月10日(水)	晴	12名
8月 7日(水)	晴	10名
9月11日(水)	雨のち曇	9名
10月 9日(水)	晴	12名
11月13日(水)	晴	9名
12月11日(水)	晴	10名
平成26年 1月15日(水)	曇	10名
2月12日(水)	曇	9名
3月12日(水)	晴	9名
合計	—	延125名

(3) 自然環境調査結果

調 査 日	草本類	木本類	昆虫類	鳥 類	合 計
4月11日(木)	27	30	14	13	81
			(0)	(3)	(3)
5月 8日(水)	36	23	45	10	114
			(1)	(1)	(2)
6月12日(水)	21	18	21	8	68
			(0)	(1)	(1)
7月10日(水)	46	17	50	10	123
			(1)	(1)	(2)
8月 7日(水)	46	14	60	8	128
			(1)	(1)	(2)
9月11日(水)	39	16	55	9	119
			(1)	(1)	(2)
10月 9日(水)	45	19	49	7	120
			(2)	(0)	(2)
11月13日(水)	33	21	26	11	92
			(1)	(1)	(2)
12月11日(水)	28	19	24	15	86
			(0)	(0)	(0)
1月15日(水)	7	20	17	16	61
			(0)	(2)	(2)
2月12日(水)	9	13	13	16	51
			(0)	(2)	(2)
3月12日(水)	5	15	7	14	39
			(0)	(0)	(0)
合 計	139	72	159	25	395
			(7)	(3)	(10)

※下段は草本類にあつては植栽と思われる種数。()内は外来種の数。

下段は確認した数から再掲

(4) 自然環境調査結果 草本①

	調査月	調査日 天気	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
			11日晴・曇	8日晴	2日雨	10日晴	7日晴	11日雨	9日晴	13日晴	11日晴	15日曇	12日晴	
結実、開花状況 蕾b=○、開花fl=◎、結実fr=●			蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実
1	イラクサ科	ヤブマオ				○◎	○◎●							
2	タデ科	イヌタデ				○◎		◎						
3		ハナタデ							◎	◎●	◎●			
4		ミズヒキ				○◎	○◎	○◎●	○◎●	●				
5	ヤマゴボウ科	ヨウシャヤマゴボウ			○◎●	○◎●	○◎●	○◎●	●	●	●			
6	スベリヒユ科	ハゼラン				○								
7	ナデシコ科	コハコベ	○◎	◎●										
8		ウシハコベ		○◎										
9	ヒユ科	イノコズチ						◎	◎		●	●	●	
10		ヒナタイノコズチ					○◎				●			
11	キンボウゲ科	*オダマキの仲間		○◎										
12		*キバナイカリソウ	○◎											
13		センニンソウ					○	○◎●	●					
14		*ニリンソウ	○◎											
15		*ユキワリイチゲ												○
16	ドクダミ科	ドクダミ			○◎	○◎	●							
17	センリョウ科	ヒトリシズカ	○◎											
18		フタリシズカ		○◎		●	●							
19	ウマノスズクサ科	*カンアオイの仲間	○◎											
20		*タマノカンアオイ	◎	◎										
21	ケシ科	タケニグサ			○	○	●	●	●					
22		ナガミヒナゲシ		●										
23		ムラサキケマン	○◎	◎●										
24	アブラナ科	イヌガラシ				○◎●				○◎●				
25		ハナダイコン	○◎	○◎										
26	バラ科	キンミズヒキ				○	○◎●	○◎●	◎●	●	●			
27		ダイコンソウ					●		◎●					
28		ヘビイチゴ	○◎	●	●	●								
29	マメ科	アレチヌスビトハギ						○◎●						
30		ヌスビトハギ					○◎	○◎	○◎	○◎●	●	●	●	●
31		フジカンソウ				○◎	○◎●	◎●	●	●	●			
32	カタバミ科	イモカタバミ		○◎										
33		オッタチカタバミ		○◎			●	○◎●						
34		ムラサキカタバミ				○◎								
35	シナノキ科	カラスノゴマ								●				
36	スマレ科	タチツボスミレ	○◎	●	●		●							
37	シュウカイドウ科	シュウカイドウ							◎●					
38	ウリ科	アマチャヅル					○◎	◎●		●				
39		カラスウリ									●			●
40	アカバナ科	オオマツヨイグサ				○◎	○◎							
41		ミズタマソウ					○◎●							
42		ユウゲショウ				○◎●								
43	セリ科	オヤブジラミ		○◎										
44		ヤブニンジン	○◎	●										
45	キョウチクトウ科	*ツルニチニチソウ	○◎	○◎										
46	アカネ科	ヘクソカズラ				○◎	○◎	●	●	●	●	●	●	●
47		ヤエムグラ	○◎	●										
48	シソ科	アキノタムラソウ				○◎	○◎●	●	◎●					
49		キランソウ	○◎											
50		ジュウニヒトエ	○◎	◎●										
51		ヒメジソ								●	○◎			
52	ナス科	アメリカイヌホオズキ					○◎			●				
53		イヌホオズキ									●			
54		ヒヨドリジョウゴ				○◎●	○◎●	○◎●	●	●	○◎●	●	●	
55	ゴマノハグサ科	トキワハゼ				◎								
56		ピロードモウズイカ				○◎								
57	キツネノマゴ科	キツネノマゴ							○◎					
58	ハエドクソウ科	ハエドクソウ				○◎	○◎●	◎●						
59	オオバコ科	オオバコ		●		○◎●								
60	オミナエシ科	オトコエシ					○	○◎						

(4) 自然環境調査結果 草本②

調査月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査日 天気		11日晴・曇	8日晴	2日雨	10日晴	7日晴	11日雨	9日晴	13日晴	11日晴	15日曇	12日晴	
結実、開花状況 蕾b=○、開花fl=◎、結実fr=●		蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実	蕾花実
61	キク科	アイノコタンポポ	◎	◎									
62		アイノコセンダングサ								◎◎●			
63		アキノノゲシ						◎◎					
64		アメリカオニアザミ			◎◎	◎◎							
65		アメリカセンダングサ					◎◎	◎◎					
66		ウラジロチチコグサ		◎◎	◎◎●	●	●						
67		エゾタンポポ		◎									
68		オオアレチノギク					◎◎	●	◎●				
69		オニタビラコ	◎◎	◎◎●	◎◎●	◎◎●							
70		オニノゲシ		◎◎●									
71		ガンクビソウ					◎◎	●	●	●	●		
72		カントウヨメナ					◎◎						
73		コセンダングサ				◎●		◎◎		◎●			
74		コヤブタバコ					◎◎						
75		サジガンクビソウ			◎	◎◎	◎●	●					
76		シロヨメナ							◎◎	◎◎			
77		セイタカアワダチソウ						◎		●◎◎●	◎◎●	●	
78		セイヨウタンポポ		●									
79		タチチコグサ							◎●				
80		ダンドボロギク					◎◎●	◎●					
81		チチコグサモドキ				◎◎●							
82		ニガナ		◎◎									
83		ノゲシ	◎◎	◎◎●	◎◎	◎							
84		ノブキ					◎◎	◎◎●	◎●	●	●		
85		ハキダメギク				◎◎●	◎◎●						
86		ハルジオン	◎◎	◎◎									
87		ヒメジョオン			◎◎	◎◎	◎◎						
88		ヒヨドリバナ				◎◎	◎◎			●	●		
89		ヤクシソウ						◎◎	◎◎				●
90		ヤブタバコ					◎						
91		ユウガギク						◎●					
92	ユリ科	オオバギボウシ			◎◎								
93		シオデ								●			
94		*タイワンホトギス						◎◎					
95		タカサゴユリ					◎	●					
96		タチシオデ						●					
97		ニラ						◎●					
98		ノカンゾウ					◎◎						
99		ホウチャクソウ	◎◎	◎●	●	●	●		●	●	●		
100		ヤブラシ	●				◎◎	◎◎●	◎●	●	●	●	●
101		ヤマユリ			◎	◎◎		●					
102	ヒガンバナ科	キツネノカミソリ					◎◎	◎◎					
103	ヤマノイモ科	オニドコロ	●			◎◎	◎◎	●	●	●	●		●
104		ヤマノイモ					◎◎						
105	アヤメ科	*シャガ	◎◎	◎◎									
106		ヒメヒオウギズイセン				◎◎							
107	イグサ科	クサイ				●							
108	ツユクサ科	ツユクサ				◎	◎	●	◎				
109		ノハカタカラクサ			◎								
110		ヤブミョウガ			◎◎	◎◎●	◎◎●	◎◎●			●		
111	イネ科	アキノエノコログサ								●			
112		イヌビエ				●	●						
113		イヌムギ				●							
114		エノコログサ				●	●	●	●				
115		オオアレチノギク								◎◎			
116		オオクサキビ					◎◎●	◎●	●	●			
117		カゼクサ						●	●	●			
118		カモガヤ		◎	●	●							
119		コメヒシバ						●	●				
120		チョウセンガヤツリ						●					

(4) 自然環境調査結果 草本③

	調査月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	調査日 天気	11日晴・曇	8日晴	2日雨	10日晴	7日晴	11日雨	9日晴	13日晴	11日晴	15日曇	12日晴	
	結実、開花状況 蕾b=○、開花fl=◎、結実fr=●	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実	蕾花:実
121	ササガヤ								●				
122	シマスズメノヒエ								●	◎◎			
123	チヂミザサ								●	●			
124	ノガリヤス							◎◎		●			
125	ミゾイチゴツナギ		◎●										
126	メヒシバ					◎◎	●	●	●				
127	サトイモ科 *ムサシアブミ	◎	◎										
128	カヤツリグサ科 ナキリスゲ	●					◎◎●	◎	●	●	●		
129	ラン科 オオバトソウ			◎	◎		●		●	●			
130	キンラン	◎◎	◎◎	●									
131	ギンラン		◎◎	●									
132	ササバギンラン			●									
133	シュンラン	◎										◎	
134	*サイハイラン		◎◎										
135	*シラン		◎◎										
136	マヤラン				◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎	◎◎		
	各状態数	29 26 5	38 31 7	23 18 5	48 33 15	48 41 7	41 35 6	47 34 13	35 29 6	30 27 3	9 7 2	11 8 3	2 2 0
	確認個体数	29	38	23	48	48	41	47	35	30	9	11	2

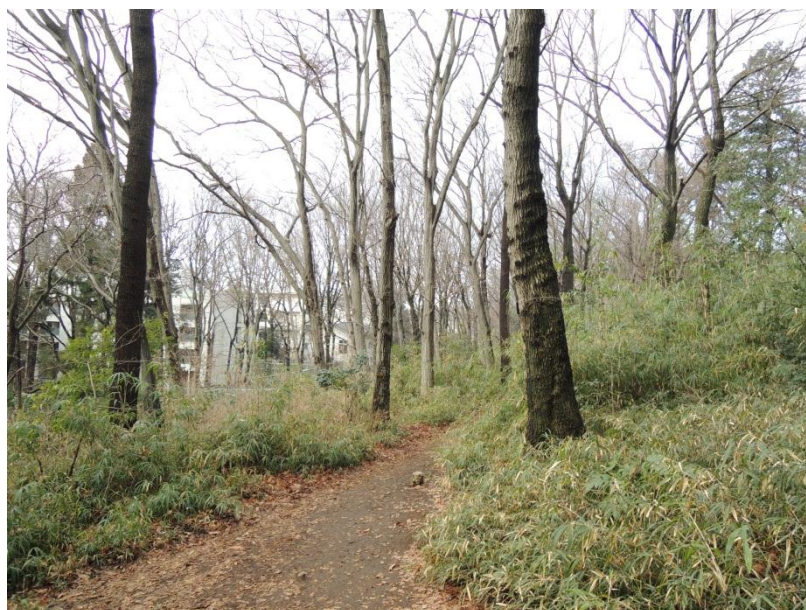


(4) 自然環境調査結果 木本類①

No.	科	樹名	調査月			4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
			結実、開花状況	蕾b=○	開花fl=◎	結実fr=●	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花	実花	蕾花
1	マツ科	アカマツ		●			●											●											
2	ヒノキ科	サウラ		●															●			●			●				
3		ヒノキ	◎			●													●			●							
4	カバノキ科	イヌシデ	◎								●											○							
5		クマシデ									●								●										
6	ブナ科	クヌギ	◎											●		●			●		●		●						
7		コナラ	◎													●			●		●		●						
8		シラカシ																			●								
9		ヤマグリ																		●									
10	ニレ科	エノキ	◎													●							●						
11		ケヤキ	◎																										
12		ムクノキ																						●					
13	クワ科	ヤマグワ	◎			◎									●														
14		ヒメコウゾ	◎	●		◎	●																						
15	モクレン科	コブシ																				○		○		○			
16	マツバサ科	サネカズラ																					●		●				
17		ビナンカズラ																				●							
18	クスノキ科	ヤマコウバシ									●					●													
19	メギ科	ナンテン				○◎																							
20		*ヒイラギナンテン		●	◎		●															○		○		○◎			
21	アケビ科	アケビ	○◎																										
22	ツバキ科	サザンカ															○		○		○		○		○◎				
23		*シロヤブツバキ	○◎																										
24		ツバキ園芸種																					○◎		○◎				
25		チャノキ																	◎	●	○◎								
26		ヒサカキ																		○	●		○		○◎				
27		ヤブツバキ	◎											●		●					●	○		●	○◎				
28	ユキノシタ科	アジサイ				○◎			◎																				
29		ガクアジサイ				○◎																							
30	バラ科	イヌザクラ				◎																							
31		ウメ																							○◎				
32		カマツカ	○																			●							
33		コゴメウツギ				○◎																							
34																													
35		*サトザクラ(カンザン)	○◎																										
36		*シロヤマブキ	○◎																						●		●		
37		ノイバラ				○◎																			●				
38		ヤエヤマブキ	○◎																										
39		ヤマブキ												◎															
40	ミカン科	サンショウ	○◎		○◎																								
41	カエデ科	オニイタヤ																				●							
42	モチノキ科	イヌツゲ																					●						
43	ニシキギ科	コマユミ	○																					●					
44		ニシキギ				◎																							
45		マユミ	○		○◎		●		●		●		●		●								●		●				
46	ミツバウツギ科	ゴンズイ		○		○								●		●		●		●		●					●		
47	ブドウ科	エビヅル								○																			
48	グミ科	ツルグミ																						○					
49	ミズキ科	アオキ	◎	●		●		●		●		●		●		●		●		●		○		●	○				
50		クマノミズキ				○◎		○◎		○◎		●		●		●		●		●		●							
51		ミズキ			○◎	●				●		●		●		●		●		●									
52		ヤマボウシ				○◎																							
53	ウコギ科	ヤツデ	◎																		○		○		●		●		
54	ツツジ科	*アセビ	○◎	●		●		●		○		○		○		○		○		○		○		○		○	◎	◎	
55		*オオムラサキツツジ	○◎		○◎																								
56		*クリスマスツツジ	○◎																										
57		サツキ										◎																	
58	ヤブコウジ科	マンリョウ																					●		●		●		
59		ヤブコウジ				○																							
60	モクセイ科	ネズミモチ																							●				

(4) 自然環境調査結果 木本類②

調査月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
結実、開花状況 蕾b=○、開花fl=◎、結実fr=●		蕾花	実	蕾花	実	蕾花	実	蕾花	実	蕾花	実	蕾花	実
61	エゴノキ科 エゴノキ	○		◎	◎	●	●	●	●	●	●		
62	ハイノキ科 サワフタギ	○	◎		●	●	●	●	●				
63	クマツヅラ科 クサギ						◎	●	●				
64			○	◎	◎	●	●	●	●	●	●		
65	スイカズラ科 ウグイスカズラ	◎		●									
66		○	○					●		●			
67				◎	◎						●		
68	*ハナゾノツクバネウツギ					◎	◎	◎	◎	◎	●	●	●
69	ユリ科 サルトリイバラ					●							
70	イネ科 アズマネザサ	◎	◎	●	●	●				●			
71	ヤシ科 シュロ		◎	◎									
	各状態数	17 23	6 14	16 16	8 11	8 10	6 5	13 4	3 3	17 4	5 3	19 7	2 8
	確認個体数	31	24	19	18	15	17	20	22	20	22	14	1



(4) 自然環境調査結果 昆虫類①

科	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	A	B	C
		11日(木) 快晴	8日(木) 晴	12日(水) 小雨	10日(水) 晴	7日(水) 晴	11日(水) 雨	9日(水) 晴	13日(水) 晴	11日(水) 晴	15日(水) 曇	12日(水) 曇	12日(水) 晴			
1	トンボ科	アキアカネ							○	○				2	○	
2		シオカラトンボ		○ ♀		○ ♀	○ ♀							3	○	
3		ナツアカネ						○						1		
4	ハサミムシ科	コヒゲジロハサミムシ	○									○ ♀		2	○	
5	バツ科	オンバツ						○	○					2		
6		ショウリョウバツ					◆		○	○				3	○	
7	キリギリス科	ササキリ					◆	○	○	○				3	○	○
8	コオロギ科	エンマコオロギ						○	○					2		○
9		カネタタキ							■	○				2	○	
10		マダラスズ						○	○					1		○
11	カマキリ科	オオカマキリ		○	◆	○	○	○	▲	▲	▲		▲	8		
12		コカマキリ			◆									1	○	
13		チョウセンカマキリ								▲	▲			2		
14		ハラビロカマキリ							▲					1	○	○
15	マルカメムシ科	マルカメムシ							○	○				2		
16	カメムシ科	ウシカメムシ								○				1		
17		キマダラカメムシ(外)						○						1		
18		チャバネアオカメムシ						○	○				◆	3	○	
19		フチヒゲカメムシ										○		1		
20	クヌギカメムシ科	クヌギカメムシ		◆							▲	▲	◆	4		
21	ツノカメムシ科	エサキモンツノカメムシ							◆					1		
22	ヘリカメムシ科	キハラヘリカメムシ		○				○						2	○	○
23		ホソハリカメムシ			○	○			○	○				4	○	
24		マツヘリカメムシ(外)							○					1		
25	ホソヘリカメムシ科	ホソヘリカメムシ		○					○					2		
26	ヒラタカメムシ科	ノギリヒラタカメムシ		○	○									2	○	
27	カスミカメムシ科	ケバキヘリナガカスミカメ		○										1		
28	コバネナガカメムシ科	ヒメコバネナガカメムシ									○			2		
29	サンガメ科	ヨズナサンガメ									◆			1		
30		ヤニサンガメ								○	○			2	○	○
31	セミ科	アブラゼミ					○	○	○					3	○	
32		ツクツクボウシ					○	○	○					3	○	
33		ニイロゼミ					○	○						2		
34		ヒグラシ					○	○						1	○	
35		ミンミンゼミ					○	○	○					3		
36	アワフキムシ科	シロオビアワフキ		◆										1		
37	オオヨコバイ科	オオヨコバイ		◆	○	○	○	○	○	○				7	○	
38		ツマグロオオヨコバイ	◆	○	○	○	○	○						7	○	
39	ハゴロモ科	アミガサハゴロモ					○	○						2		
40		スゲバハゴロモ					○	○						2		
41	アオバハゴロモ科	アオバハゴロモ					○	○	○					3	○	○
42	アブラムシ科	キスゲフクレアブラムシ								○				1		
43		ヘクソカズラヒゲナガアブラムシ								○				1		
44	ハネナガウンカ科	アカハネナガウンカ					○							1		
45	クサカゲロウ科	クサカゲロウ	○	○	○	○	○	○		○			○	9	○	
46	セセリチョウ科	イチモンジセセリ					○	○	○					3		○
47		ダイミョウセセリ						○						1		○
48	アゲハチョウ科	アオスジアゲハ				○		○	○					3		○
49		アゲハチョウ		○ ♀										1		○
50		カラスアゲハ		○ ♀										1		○
51		キアゲハ		○ ♀										5	○	○
52		クロアゲハチョウ		○ ♀			○	○	○	○				5		○
53		ジャコウアゲハ		○ ♀		○ ♀	○ ♀	○ ♀	○ ♀					4		○
54		ナガサキアゲハ(南)					○ ♀							1		
55	シロチョウ科	キタキチョウ		○ ♀		○ ♀	○ ♀	○ ♀	○	○				6	○	
56		スジグロチョウ		○ ♀			○ ♀	○ ♀	○	○				6	○	○
57		ツマキチョウ	○ ♀	○ ♀										1		○
58		モンシロチョウ	○ ♀	○ ♀					○	○	○			5	○	
59	シジミチョウ科	アカシジミ			○									1		○

(4) 自然環境調査結果 昆虫類②

	科	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	A	B	C
			11日(水)	8日(水)	12日(水)	10日(水)	7日(水)	11日(水)	9日(水)	13日(水)	11日(水)	15日(水)	12日(水)	12日(水)			
			快晴	晴	小雨	晴	晴	雨	晴	晴	晴	曇	曇	晴			
61		ウラナミアカシジミ		◆		○									2		
62		ウラナミシジミ(南)							○	○					2		
63		ベニシジミ		○			○	○	○	○					5		○
64		ミスイロオナガシジミ				○									1	○	○
65		ムラサキシジミ(南)								○	○				2		
66		ヤマトシジミ	○	♂	○	♂	○	○	○	○	○				9	○	○
67		ルリシジミ		○	♂										3	○	○
68	タテハチョウ科	アカボシゴマダラ(外)		○	♀		○	♂	♂	○	♂	○			5		
69		キタテハ		○		○	○	○	○	○					6	○	○
70		ゴマダラチョウ					○	○	○				◆		3		○
71		コムスジ		○		○	○	○	○						5	○	○
72		ツマグロヒョウモン(南)				○	♂	○	♂						3		
73		ルリタテハ						○	○	○	○				4		○
74	ジャノメチョウ科	クロヒカゲ			○	○									2		
75		コヒカゲチョウ							○						1		
76		サトキマダラヒカゲ				○	○	○							3	○	
77		ヒカゲチョウ					○	○	○						2	○	
78		ヒメウラナミジャノメ		○	○	○									3	○	
79	テングチョウ科	テングチョウ	○	♀					○						2		
80	ツトガ科	オオキノメイガ							○						1		
81	スカシバ科	モモフスカシバ				○									1		
82	ミノガ科	オオミノガ			■						■	■			3		○
83	マダラガ科	シロシタホルガ		◆	○	♂♀									2	○	○
84	シャクガ科	イチモンジフナミシャク										○	♀		1		
85		ウスオビフユエダシャク		◆											1		
86		ウスキツバメダシャク							○						1		○
87		ウスバフユシャク										○	♂		1		
88		ウンモンオビヒロヒメシャク			○										1	○	
89		クロオビフユナミシャク									○				1		
90		クロスジフユエダシャク									○	♀			1		
91		シロトゲエダシャク												○	♂		
92		トギレフユエダシャク												○	♂		
93		ヒメアオシャク			○										1		
94	ヤガ科	オオウンモクチバ						○							1		
95		キノカワガ												○	1		
96		クロクモヤガ									○				1		
97		コシロシタバ				○	♂♀	○	○						3	○	
98		ヒメネジロコヤガ						○							1		
99	ドクガ科	マイマイガ				○	♂								1		
100	スズメガ科	オオスカシバカ					○								1		○
101	ヒロズコガ科	マダラマルハヒロズコガ										◆	◆		2		
102	マルハキバ科	シロスジカバマルハキバガ		○											1		
103	ガガンボ科	キイロホリガガンボ		○											1	○	
104	ケバエ科	ハグロケバエ	○												1		
105	ムシヒキアブ科	サキグルムシヒキ					○								1		
106		シオヤアブ		○		○	○	○							4		○
107	ツリアブ科	クロバネツリアブ		○											1		
108	ハナアブ科	アシブハナアブ							○						1		
109		ヒメヒラタアブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		11		
110		ホソヒメヒラタアブ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		9		○
111	ベッコウバエ科	ネジロクロミバエ	○												1		
112	ハバチ科	コシマハバチ		○											1		
113	コマエバチ科	サムライコマエバチ類										○	○		2		
114	アリ科	クロオアリ	○												1		
115	スズメバチ科	オオスズメバチ				○									1		
116		キロスズメバチ			○	○	○	○							4		
117		コガタスズメバチ					○	○	○	○					4	○	
118	ミツバチ科	クマバチ		○			○	○	○						4	○	
119		セイヨウミツバチ		○			○	○	○	○	○				6		
120		ニホンミツバチ		○			○	○	○	○					5	○	

(4) 自然環境調査結果 昆虫類③

	科	種名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	A	B	C	
			11日(水) 快晴	8日(水) 晴	12日(水) 小雨	10日(水) 晴	7日(水) 晴	11日(水) 雨	9日(水) 晴	13日(水) 晴	11日(水) 晴	15日(水) 曇	12日(水) 曇	12日(水) 晴				
121	ハンミョウ科	トウキョウヒメハンミョウ			○	○	○								3		○	
122	シテムシ科	オオヒラタシテムシ				○	○								2	○		
123	ケシキスイムシ科	ヨツボシケシキスイ	○			○	○								3		○	
124	テントウムシ科	キイロテントウムシ		○◆		○	○	○				○			5			
125		テントウムシ		○											1	○		
126		ナナホシテントウ			○	○	○	○	○	◆	◆	◆	◆		9			
127		ニジュウホシテントウ						○							1			
128		ヒメカメノコテントウムシ										○			1			
129	テントウムシダマシ科	セダカテントウムシダマシ										○			1			
130	クチキムシ科	オオキクチキムシ											○		1	○		
131	タマムシ科	ウメチビタマムシ										○			1			
132	コメツキムシ科	サビキリ				○	○								2	○	○	
133		ボンハナコメツキ					○								1			
134		ヒメクロコメツキ				○									1			
135	ゴミシダマシ科	キマワリ				○									1			
136		ヒメマルクビゴミシダマシ		○					○						2			
137	クチキムシ科	クチキムシ					○								1			
138	カミキリムシ科	ゴマダラカミキリ					○								1			
139		ノキリカマキリ					○								1			
140		ヒメヒゲナガカミキリ				○									1			
141	ハムシ科	ウリハムシ		○	○	○	○	○	○						6			
142		オオアカマルノミハムシ				○									1			
143		クロウリハムシ		○	○	○	○	○							5			
144		クロボシツツハムシ		○											1			
145		サンゴジュハムシ		○											1			
146		ヒメジンガサハムシ										○	○		2			
147	オトシツミ科	ヒメクロオトシツミ			○										1	○		
148	ゾウムシ科	カシワクチフトゾウムシ										○	○		2			
149	センテコガネムシ科	センテコガネ	○ ♀?												1	○		
150	コガネムシ科	カナブン				○	○	○							3	○		
151		カブトムシ				○ ♂	♂	♂ ♀							2	○	○	
152		クロカナブン					○	♀							1	○		
153		コガネムシ						○							1			
154		シロテンハナムグリ		○		○	○								3	○		
155		セマダラコガネ					○								1	○		
156		ヒラタハナムグリ										○			1	○		
157		マメコガネ				○	○	○	○						4	○		
158	クワガタムシ科	コクワガタ				○ ♀						○	♂		2	○	○	
159		ノギリクワガタ				○ ♀									1	○		
68科			159種	14	45	21	50	60	55	49	26	24	17	13	7	381	54	37

自然環境調査結果 昆虫類に関して

【分類方法について】

- ① 府中自然報告（1970年）-夏秋編-の分類方法を採用する。
- ② ①の分類に該当していない新しく確認された（目/科）については、朝比奈正二郎氏「基準昆虫分類表」に準じる。
- ③ 種名の列挙は、アイウエオ順とする。

【昆虫の生態確認に関して】

- ① 昆虫の生態の記号化：卵 ▲ / 幼態 ◆ / 蛹 ■ / 成虫 ○ / 成虫の異常型 ●
- ② 成虫のオス・メスに関して、不明の場合は表示しない。はっきりと判別された時は記号で示す。
オス ♂ / メス ♀ / 表示方法 ○♀
- ③ 幼虫の同定・確認の出来ないものは除外した。特にガ類、甲虫類に多い。

【過去の資料との対比】

- ① 「府中自然報告（1970年）-夏秋編-」で収録された中で（武蔵台公園）の確認種
今回の調査で再確認されたものは、表「B」欄に○で示す。40数年前の動静を知ること必要と判断した。
- ② 「府中昆虫ガイドブック」（1983年3月発行）で収録された中で（武蔵台公園）の確認種。
今回の調査で再確認されたものは、表「C」欄に○で示す。30数年前の動静を知ること必要と判断した。

【その他の表記】

表「A」欄 1年で確認された回数を示す。
 (外)：外来種・今回3種確認
 (南)：南方系・今回4種確認

(4) 自然環境調査結果 鳥類

			13年度													観測 月数		
			月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2		3	
			日	21	11	8	12	10	7	11	9	13	11	15	12		13	
番号	科目	名称	天気															
			晴	曇り	晴	小雨	晴	晴	雨曇	曇り	晴	晴曇	曇り	晴	晴			
9	カモ	カルカモ							○								1	
20	ハト	キジハト	雉鳩	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
50	幼	ツミ	雀鷹		○	○											2	
57	キツキ	コケラ	小啄木鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
59	キツキ	アオケラ	緑啄木鳥	○								○				○	2	
65	カラス	オナガ	尾長			○			○	○	○		○	○	○	○	8	
66	カラス	ハシホソカラス	嘴細鳥					○			○			○			3	
67	カラス	ハシフトカラス	嘴太鳥	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
69	シジュウカラ	ヤマカラ	山雀	○													0	
71	シジュウカラ	シジュウカラ	四十雀	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
76	ヒヨドリ	ヒヨドリ	鶉		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	12
77	ウグイス	ウグイス	鶯	○	○					○		○	○	○		○	6	
78	エナガ	エナガ	柄長	○	○								○	○	○	○	5	
81	メジロ	メジロ	目白	○	○	○	○	○		○		○	○	○	○	○	○	10
85	ムクドリ	ムクドリ	椋鳥				○	○					○			○	4	
87	ビタキ	シロハラ	白腹										○	○			2	
89	ビタキ	ツグミ	鶺鴒											○	○	○	3	
92	ビタキ	ジョウビタキ	尉鶺鴒												○		1	
98	スズメ	スズメ	雀			○		○				○			○		4	
100	セキレイ	ハクセキレイ	白鶺鴒		○								○		○		3	
105	アトリ	カワラヒワ	河原鶺鴒										○			○	2	
108	アトリ	シメ	鴉										○	○	○		3	
115	ホオジロ	アオジ	青鶺鴒	○									○	○	○	○	○	5
観測種数			22	10	10	9	7	9	7	8	7	10	15	14	14	14	22	
カウント外																		
		ドバト			○							○		○	○			
		カビチョウ			○	○	○	○	○	○				○	○			
		ソウシチョウ			○													

(4) 府中市自然環境調査員会議委員の感想

1. 調査をやってみて感じたこと

(どんな生きもの・植物に興味・関心を持ちましたか？気づいた点など)

☆新井委員

フユシャクガやエノキの落葉裏にいた越冬幼虫のゴマダラチョウなど冬枯れの林の中でも昆虫がしっかり春を迎える準備をしているのだなと思いました。

☆石川委員

野草と樹木を調査するたびに、種類が多く名前の知らない物の多いのにおどろいている。

☆糸井委員

○植物 特に野の花（特にキンラン、ギンラン、ハルシオン、タチツボスミレ等ひっそりと咲いている花）

○鳥類 自宅の庭に現れては寒椿をつついている鳥を見て、図鑑を見るようにもっと観察したいと思います。

☆大澤委員

武蔵台公園の1年間の鳥のデータがなかったのでどの程度の種が見られるか関心がありました。25種でしたのでこれを基礎に来年度どうなるか興味が湧きます。

☆椋島委員

*アカホシゴマダラ（チョウ）；エノキを食樹とするオオムラサキとの関係。

*シロシタホタルガ；昔はこの公園では見かけなかったように思う。

*カネタタキ；この公園にもまだ生きていたのか。

昆虫の生息調査の方法に強い関心を持ったが、その細かさをいかに啓蒙するか。

☆小泉委員

①調査時間が短い。昆虫調査に関しては約3時間必要。

②記録された写真等の費用分担の補助等。報告書作成に関しても多くの時間を要している。

☆後藤委員

昆虫類→モンシロチョウ、シジミチョウ、テントウム虫、カメムシ類等多くの昆虫が観察されているとのことですが、曜日が合わず何度かしか行けず、専門家が多くいらっしゃり、楽しく勉強させていただきました。

私自身は、チョウ類が好きで我が家にも毎年卵をうみつけていて育ててい

った感動を毎年感じております。

☆佐川委員

笹刈りをした後に新しい植物が出てきたり、元から根付いていた物、外から持って来て植えたもの等の区別を教えてもらえたこと、いつも散歩している人はどこに何があるか、何が咲いているかよく分かっている人達がいること。

☆内藤委員

林下の植物、例えばタマノカンアオイ、オオバノトンボソウ、キンラン、マヤランなど

(気づいた点) 役所で作成した平成25年度調査の折れ線グラフから、草本と昆虫との相関性が明らかに見られることが興味深い(当たり前といえばそれまでだが)

☆野口道夫委員

多摩川で同様な調査をしています。武蔵台は樹木が多いという印象を受けます。多摩川ではイネ科など外来種が40%強ですが、武蔵台はかなり少なく、それだけ自然が乱されていないと感じています。

野草ではハナタデ、フタリシズカ、ダイコンソウ、フジカンゾウ、カラスノゴマ、ミスタマソウ、キランソウ、ジュウニヒトエ、ヒヨドリジョウゴ、ニガナ、ヤクシソウ、キツネノカミソリ、オオバノトンボソウ、キンラン、ギンラン、ササバギンラン、シュンラン、マヤランなどが、樹木ではサワフタギ、ニガキなどが観察され、浅間山とともに市内では貴重な緑地だと思えます。

☆野口佑子委員

うぐいすが年間通じて身近にいるという事も知らず、春のきれいな鳴き声のホーホケキョにだけ、耳をかたむけていた自分がいました。この頃はやぶから聞こえてくる地鳴きに興味を示しています。

☆橋本委員

応募当初は、野鳥も植物も昆虫も全部に拘わりたいと思っておりましたが、実際の調査ではあっちもこっちもは無理でした。結局が一番興味のある野鳥担当となりましたが、鳥は飛んで行ってしまいます。たまたまその時、その場所で出会えた鳥には感謝しております。

この調査で先輩調査員から教わった貴重な言葉があります。調査イコールデータの収集であり、雨が降っても、雪が降っても調査を中止するわけにはいかない。その月一回のデータがなければ、いろいろなことが分からなくなってしまう。特に、野鳥調査の場合には、子育ての時期の4月～6月、梅雨でもあり雨が多い。でもこの時期の調査を怠れば、親鳥

が幼鳥に給餌する姿を確認できず、この公園での営巣が確認できなくなるのである。動物は生きているのである。どんな自然環境の中でも、自然の厳しさの中で生きているのである。その事実を確認できれば、その種は確実にこの地域で繁殖しているのである。(シジュウカラを確認した。)

この言葉を聞いた後は、どんな時でもとりあえず雨合羽を着て調査現場に向かっております。

☆森田委員

あまり興味のなかった昆虫の調査を担当させていただいています。

小泉さん、椋島さんにご指導いただいた1年でした。

野草の花に関心を持っていますが、思っていたより多彩で勉強になっています。

☆山田委員

外部から持ち込まれた植物が多いこと。その植物を楽しみにしている人がいるため、その処理をどうするか？

外来種も多く、シュロ等特定の植物の処理が必要。

2. 調査して印象に残った生きもの

☆新井委員

植物の花や実は少なくとも、鳥はそこそこ観られるなと思った。

☆石川委員

青大将

☆糸井委員

野の花

☆大澤委員

エノキの枯葉に越冬するゴマダラチョウの幼虫

☆椋島委員

カネタタキが強く印象に残った

☆小泉委員

フユシャクガ類、カメムシ類、昆虫以外の両生類

☆後藤委員

キイロテントウムシ

☆佐川委員

初めてコゲラが木をつついてのを見た時

☆内藤委員

林下の植物、例えばタマノカンアオイ、オオバノトンボソウ、キンラン、マヤランなど

☆野口道夫委員

アオダイショウ（生態系の頂点に位置し、自然が豊かな証）

☆野口佑子委員

冬期色々な種類の小鳥達が一つの群を作り行動を共にして厳しい季節を過ごしているのが印象的でした。

☆橋本委員

昆虫類全般

樹木の隙間とか看板の裏とか考えもつかない場所にこっそり潜んで生きている姿はすごい生命力である。

昆虫担当班がヤモリが冬眠？しているケヤキ樹皮を見つけてきた。どうやって探し出してくるのか非常に驚いています。流石専門家です。

☆森田委員

クロスジフユエダシャクのメスは翅がなくほとんど動かない事。メスを見つけられた時感動しました。

☆山田委員

特になし

3. 武蔵台公園で実施した調査方法について

（現状のままでよいか、どのような点を改善した方がよいか）

☆新井委員

毎年重ねて調査が必要で、その結果何かが見えてくると思います。

☆石川委員

現状のままで

☆糸井委員

キンラン、ギンランの咲く頃、年に一回、具体的にはわかりませんが、市民に呼びかけ、参加できるイベントを開催するのも良いのではないのでしょうか。場所的に厳しい面もあるかも知れませんが。

☆大澤委員

コースは決まったので、鳥についてはカウントを実施した方がよいと思う。継続してデータを集め、繁殖状況の把握もしたいと思う。

☆椋島委員

本来の昆虫の調査とはこのようなものだと思うが、自然環境調査員とし

て、これをどのようにまとめれば、市民の自然環境保全活動に資することが出来るかを考える時に来ていると思います。野鳥、昆虫、植物の専門の委員（大澤、小泉、野口、新井、内藤の5名の方）に先ず専門的な立場から検討してもらい、今後の「市内の動植物の生息状況その他の自然環境の把握」（設置要綱第2条（1）項）に活動を広げる準備をそろそろすべきかと思います。

☆小泉委員

- ①調査員の専門的知識の向上がより必要。現状では無理？
- ②夜間調査が必要（盛夏時のガ類、甲虫類を中心に）
- ③オサムシ類調査＝トラップ設置により調査が必要

☆後藤委員

私は皆様、専門家が多くいらっしゃる、現状のまま頑張って勉強させていただきます。

☆佐川委員

植物を担当しましたが、名前ごとに何月～何月まではつぼみ、花などとグラフにするとわかりやすいと思います。

☆内藤委員

全体をくまなく調査するのがベストだろうが、難しいので、専門家の指導を受けて、自然林から公園様の林地までいくつかのゾーンに分けてその一部をきちんと調査するのも一方法か。

☆野口道夫委員

植物では蕾・花・果実があるものだけ記録しているので、調査時点でそれらが見られないものが記載されていない。例イヌザクラ・ウワミズザクラ・ニガキetc対策：花や果実の時期に特別に観察する。高木は双眼鏡などを使用して確認する。

4. その他

☆椋島委員

*個人の興味もあると思いますが、野鳥、植物、昆虫の担当は時々変えないと、本来の専門の委員は別として、一般委員は自然全般を観なくなるのではないかと、危惧しています。

*市民による「身近な生き物調査」を実際にやって見ることも必要だとおもいます。やって見ないと、方法もつかめないと思うのですが……。

府中市自然環境調査（平成25年度）報告書

平成26年9月発行

発行 府中市自然環境調査員会議

編集 府中市生活環境部環境政策課自然保護係